

このたびは、マックス釘打機コイルネイラCN-353をお買い上げいただきましてありがとうございます。本機の取扱いにあたって、この取扱説明書を最後までよくお読みください。使用上の注意事項、使用方法、能力などについて十分ご理解の上、安全に適切にご使用くださるようお願いいたします。

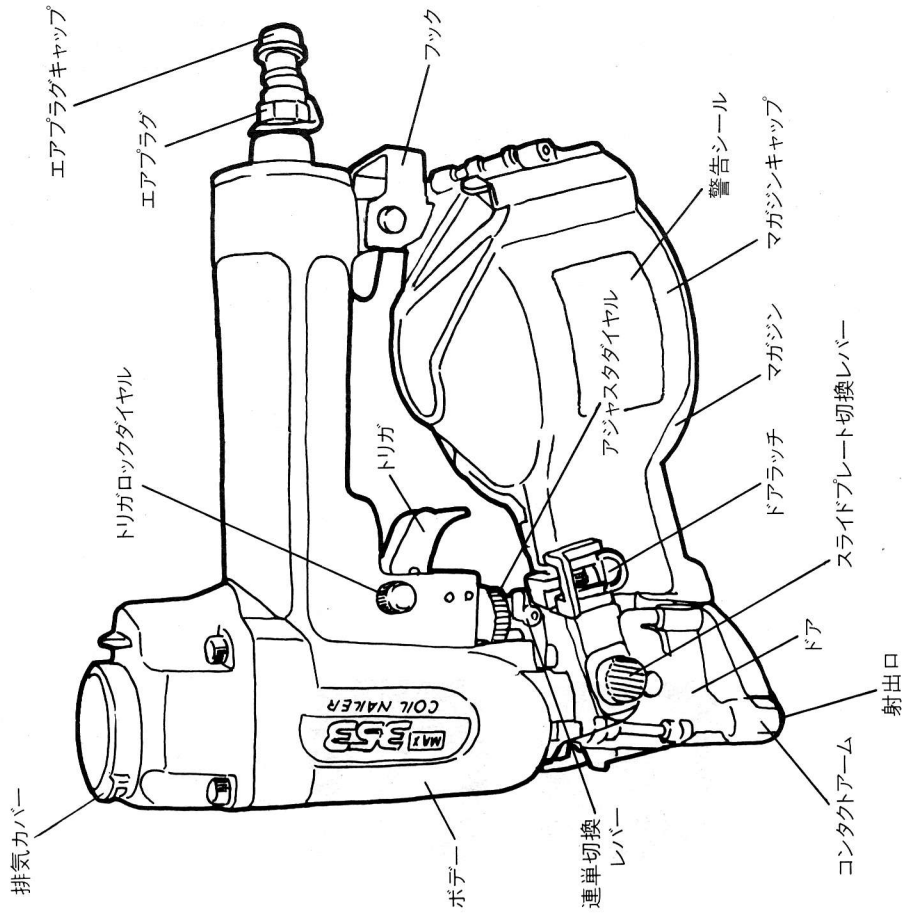
- ⚠ 警告：この表示は、取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合を表しています。
- ⚠ 注意：この表示は取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。
また、取扱いを誤った場合には、釘打機本来の性能を発揮しないばかりでなく本機の損傷につながる事が想定される場合を表しています。

目次

1. 各部の名称	1
2. 安全作業のために	2
3. 安全装置について	10
4. 仕様及び付属品	13
5. 使用方法	15
6. 配管についての注意	20
7. エアホースの接続	21
8. アジャスタの調整と打込状態の確認	22
9. コンタクトアーム、コンタクトトップの使い方	24
10. ネイルづまりの直し方	26
11. 性能を維持するために	27
12. カラ打ち時の確認事項	28

全国販売拠点、サービス拠点一覧

1 各部の名称



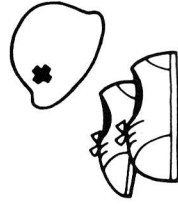
警告 安全作業のために

本機は、ネイルを木材およびそれに類した材料、石膏ボード等に打ち込むことを目的とした空気工具です。指定以外の用途、使用方法は重大な事故につながる恐れがあります。この取扱説明書の記載事項を厳守してください。作業関係者以外、特に子供は作業場所に近づけないでください。また、本機に触らせないでください。

作業前

- ① 使用の際は、必ず保護メガネを着用する。
釘打作業をする時、排気エアにより粉塵が舞い上がり、つたりネイルを連結しているワイヤや、万一反撃損傷のネイルがはね返り、眼に入ると危険です。作業する本人はもとより付近の人も必ず保護メガネを着用してください。
- ② 防音保護具を着用する。
釘打作業をする時、排気音や排気エアから耳を守るため、作業環境に応じて防音保護具（耳栓等）を着用してください。
- ③ 作業環境に応じた防具を着用する。
作業環境に応じてヘルメット、安全靴等の防具を着用してください。

警告



警告 安全作業のために

④ エアホース接続前に必ず点検する。

エアホースを接続する前に下記の点検を必ず行ってください。

1. ネジの締め付けが緩んでいたり、抜けていないか。
2. 各部部品が外れていたり、傷んでいないか。
3. コンタクトアームガススムーズに動くか。
4. トリガをロック（引けないように固定）できるか。
(11ページ参照)

不完全なまま使うと、事故や破損の原因となります。異常のある場合は、お買い求めの販売店又はマップサービス欄へ点検・修理に出してください。

⑤ エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

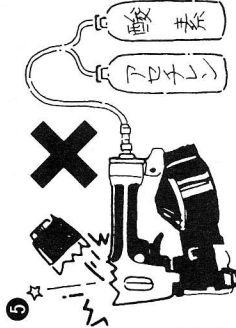
本機はエアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高压ガス（例：酸素、アセチレン等）を使うと異常燃焼をおこし爆発の危険を伴いますので、エアコンプレッサ以外は絶対に使用しないでください。

⑥ エアホース接続の時には必ず厳守する。

エアホースを接続するときは誤って作動させないよう下記のことを必ず守ってください。

1. トリガをロック（引けないよう固定）する。
2. コンタクトアームに触れない。
3. コンタクトアームを押し上げた状態にしない。
4. 射出口を人体に向けない。

警告



安全作業のために

⑦ エアホース接続時には必ず確認する。

使用前にはネイルを装填しないでエアホースを本機に接続し下記の確認を必ず行ってください。

1. エアホースを接続しただけで作動音がしないか。
 2. エアもれや異常音がしないか。
- エアホースを接続しただけで作動したり、エアもれや異常音がする場合は故障しています。そのまま使うと事故の原因となりますので、絶対に使用しないでください。異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービスセンターに点検・修理に出してください。

⑧ 安全装置が完全に作動するが使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。

使用前には必ず安全装置が完全に作動するか、確認してください。ネイルを装填しないでエアホースを接続し、トリガロックダイヤルをフリーにセットして確認してください。(10ページ参照)

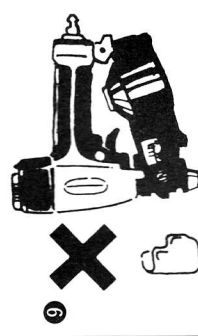
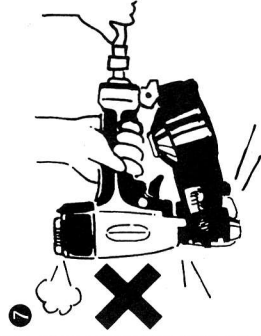
※ 下記の場合には安全装置が故障していますから本機を絶対に使用しないでください。

1. トリガを引いただけで、作動音がする。
 2. コンタクトアームを対象物に当てただけで、作動音がする。
- 異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービスセンターに点検・修理に出してください。

⑨ 防塵カバーは絶対にはずさない。

釘打作業をする時、対象部材が堅すぎたり、本機の打込能力以上ですとネイルを連結しているワイヤが打ち込まれず飛散する場合がありますので、防塵カバーは絶対にはずさないでください。また、傷んだら交換してください。

警告



安全作業のために

⑩ 指定ネイルを必ず使用する。

指定されたネイルと異なるものを使用すると本機の故障や事故の原因となりますので、必ず指定のネイルをご使用ください。(14ページ参照)

⑪ 作業場所を常に整理する。

作業場所が乱雑だとつまづくなどとして思わぬ事故の原因となります。作業場所は常に整理整頓をして安定した姿勢で作業を行ってください。

作業中

① 使用空気圧を必ず守る。

本機の使用空気圧範囲は4~7kgf/cm² (0.39~0.69 MPa)です。対象物によりその範囲内で調整し使用してください。7kgf/cm² (0.69MPa)を超えた圧力で使用すると本機の寿命を早めたり損傷によって危険を生じる恐れがあります。

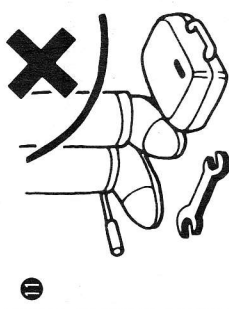
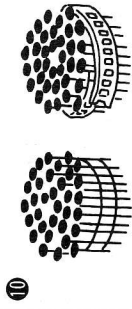
② 射出口を絶対に人体に向けない。

射出口を人に向け、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。また、射出口付近に手足等を近づけての作業は危険ですからさけてください。同時に打ち損じたネイルが人に当たらないよう作業中は付近の人に注意をはらってください。

③ 向い合わせの釘打ちは絶対にしない。

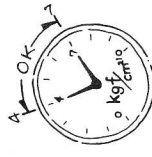
向い合って釘打作業をすると、打ち損じたネイルが前の作業者にあたり、思わぬ怪我をすることがありますので、向い合わせの釘打ちは絶対にしないでください。

警告



警告

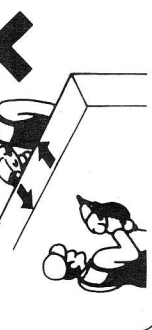
①



②



③



④ 射出口を確実に対象物に当てる。

射出口を確実に対象物に当てないと、一度打ったネイルや木の節などに当たった場合ネイルがはねたり、それたりして大変危険です。また、本機が強くなり、反発することもあり危険ですから、射出口を確実に対象物に当ててください。

⑤ 揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。

本機やエアコンプレッサを揮発性可燃物（例：シンナー、ガソリン等）のそばで使うとネイル打込時の火花による引火や、空気といっしょに吸入圧縮され、爆発の危険を伴いますので、揮発性可燃物のそばでは絶対に使用しないでください。

⑥ 移動する際は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

エアホースを接続した状態でトリガを引いたまま本機を持ち歩いたり、手渡し等をし、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。移動する際はトリガをロックし、エアホースをはずしてください。

⑦ フック使用の時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

フック使用の時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずしてください。

⑧ 作業中断時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

作業中のネイル装填、調整及びネイルづまりを直すときは誤ってネイルを発射すると危険ですから、必ずトリガをロックし、エアホースをはずしてください。

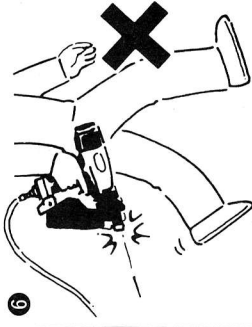
警告



⑤



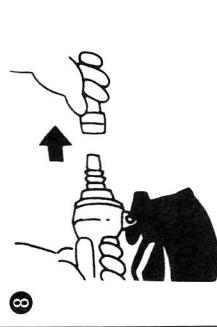
⑥



⑦



⑧



⑨ 異常を感じたら絶対に使用しない。

作業中に本機の調子が悪かったり、異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。異常のある場合はお買い求めの販売店又はマップスサービスセンターに点検・修理に出してください。

作業後

① 作業終了時には必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

作業終了時には、必ずトリガをロックし、エアホースをはずしてください。

② 作業終了時には必ずネイルを抜き取る。

ネイルをマガジン内に残しておくと、次に使用するときうっかり手を触れたり、誤って作動させた場合、思わぬ事故につながる可能性があります。作業終了時には必ずマガジン内のネイルを抜き取ってください。

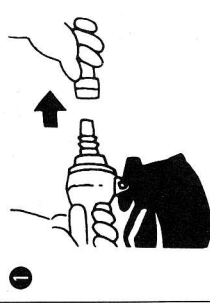
③ 本機を絶対に改造しない。

本機を改造すると、本来の性能が発揮できないばかりでなく安全性が損なわれますので、絶対に行わないでください。

警告



警告



警告 安全作業のために

屋外作業について

① 足場の安全性を十分に確認する。
足場を使つての高所作業の場合、釘打作業中に落ちることのないように充分足場の安全性を確認してください。

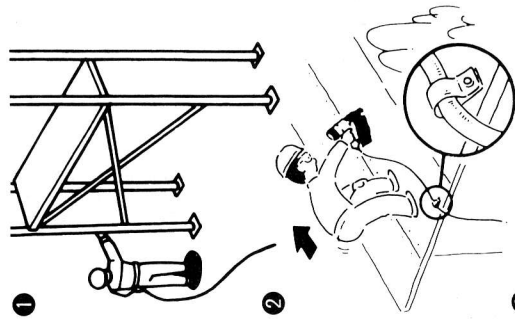
② エアホースの確保。
高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに必ず固定箇所を作ってください。これは不用意にホースが引っぱられたり、引っかかったりしたときの危険を防ぐためです。また、ホースのたるみやねじれのないように注意してください。

③ 直射日光をさける。
本機やエアセット、エアコンプレッサは直射日光に長時間あてたまま放置しないでください。また、エアコンプレッサはできるだけ日陰に設置して使用してください。

打ち方

④ 水平面の釘打ち
前進姿勢で釘打作業を行ってください。安全で疲労が少なく、正確で速い作業ができます。後退しながらの作業は足をとられるなど危険です。

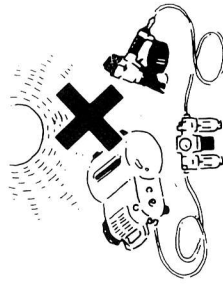
警告



①

②

③



④ (水平面)



警告 安全作業のために

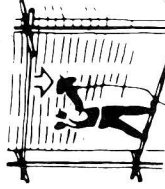
⑤ 垂直面の釘打ち

本機を手の届く最も高いところまで差し上げ、上から順に下へ釘打作業を行ってください。疲労の少ない作業ができます。

※内、外壁の同時打ちは絶対にしてしないでください。

警告

⑤ (垂直面)



⑥ 傾斜面の釘打ち

下から上に向かって前進姿勢で釘打作業を行ってください。上から下に後退すると足を踏みはずす危険があります。

⑥ (傾斜面)

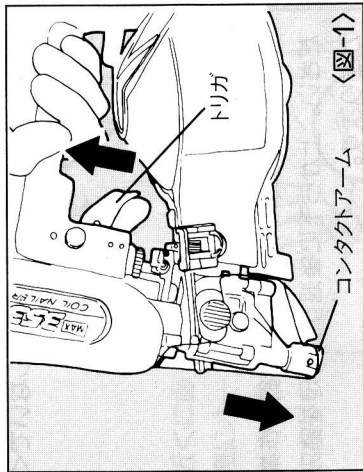


3 安全装置について

釘打作業の安全と仕上りの美しさを確保するため、本機には次のような安全装置がついています。

●メカニカル安全装置

これはコンタクトアームとトリガが同時に作動しないと発射しないメカニズムです。つまりトリガを引いただけではネイルは発射せず、また、コンタクトアームを打込対象物に当てただけでもネイルは発射しません。コンタクトアームを対象物に当てる動作とトリガを引くという動作が重なって初めてネイルは発射されます。



⚠ 警告

●安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。
使用前には必ず安全装置が完全に作動するか、確認してください。ネイルを装填しないでエアホースを接続し、トリガロックダイヤルをフリーにセットして確認してください。

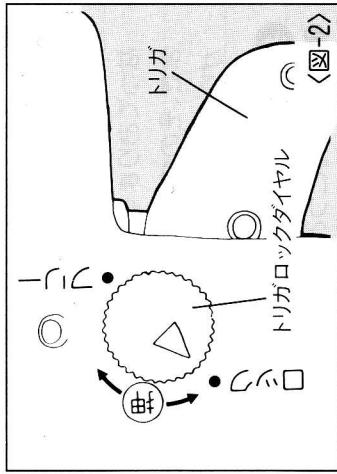
※下記の場合には安全装置が故障してしまいますから本機を絶対に使用しないでください。

1. トリガを引いただけで、作動音が出る。
2. コンタクトアームを打込対象物に当てただけで、作動音が出る。

異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス係に点検・修理に出してください。

●トリガロック装置

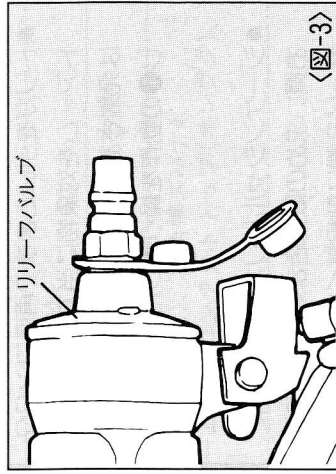
本機にはより安全に作業していただくためにトリガロック装置を標準装備しています。トリガロック装置とは、作業しないときに本機の使用者の意志によってトリガをロック（引けないように固定）することにより作動できないようにすることとができる装置です。



ネイルを打つているとき以外はトリガロックダイヤルを押し回し、ロックの位置にセットしエアホースをはずしてください。作業を始める場合はトリガロックダイヤルを押し回しフリーの位置にセットしてください。

●リリースバルブ

本機の使用空気圧範囲は4~7kgf/cm² (0.39~0.69MPa)です。7kgf/cm² (0.69MPa) を超える圧力では使用しないでください。異常高圧で使用するとリリースバルブより音を発し減圧します。その場合はただちに作業を中断し、エアホースをはずして打込圧力を再調整してください。また、エアコンプレッサ・空気経路を点検してください。なお、本機のリリースバルブはボデー部後方本体に内蔵しています。



仕様及び付属品

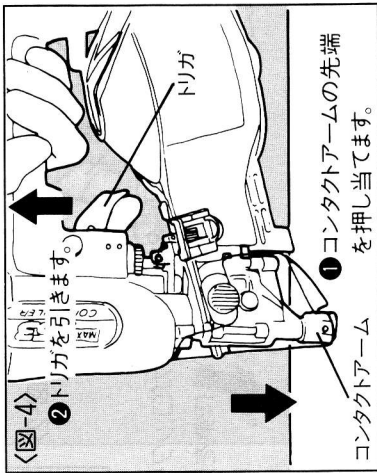
商 品 名	マックス釘打機コイルネイラ
商 品 記 号	CN-353
バルブ機構	ヘッドバルブ方式
ネイル送り機構	フィードピストンバネ送り方式
マガジン形式	マガジンキックアップ開閉方式
寸 法	(H) 252 × (W) 107 × (L) 260mm
重 量	1.45kg
ネイル装填数	200本、400本
使用空気圧範囲	4～7kgf/cm ² (0.39～0.69MPa)
使用ホース	内径7mm以上、長さ30m以内
使用オイル	タービン油1種ISO VG32 (JIS1号90番)
安全装置	メカニカル方式、トリガロック装置、リリーフバルブ
付 属 品	保護メガネ、ジェットオイル (油入)、六角棒スパナ4、フロア用コンタクトアーム(D)、コンタクトトップ(オレンジ)、コンタクトトップ (黒)

●シーケンシャルトリガ (別売部品) について

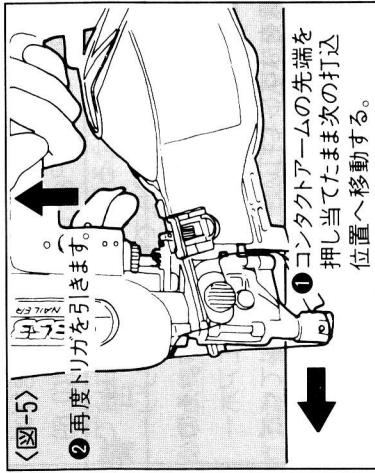
本機にはシーケンシャルトリガが別売部品として用意されています。シーケンシャルトリガは、コンタクトアームを対象物に押しあてた後、トリガを引く構造になっており、狙った場所に一発一発より一層確実に打つことができます。また、その結果として偶然の思わぬ事故から身を守り安全に作業することにつながります。

打ち方

- ① ネイルを打とうとする場所にコンタクトアームの先端を押し当ててからトリガを引くとネイルは発射されます。
- ④ またコンタクトアームを押し付けたまま次の打ち込み位置へ移動して再度トリガを引いてもネイルを発射することができます。
- ⑤



- ※トリガを引いたまま再度コンタクトアームを対象物に当ててもネイルは発射されませんので、トリガを戻し①の動作を繰り返して行ってください。



- シーケンシャルトリガの取付けは、お買い求めの販売店またはマックスサービス㈱に御相談ください。

警告

- 作業前、シーケンシャルトリガが上記通りの動作をするか必ず確認する。
- シーケンシャルトリガの各部品が摩耗または消耗していないか必ず点検して、異常がある場合は本機を使用しない。
- 異常がある場合はお買い求めの販売店またはマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

＜使用ネイル＞

足取名	200本連結		400本連結	
	ブラシート連結	内装ボート・外装用	ワイヤ連結	下地用
鉄無地釘	FCP25T3	B-NC27T3		
鉄カラード	FCP25T3カラード(1)	B-NC27T3カラード(1)		
プリント	FCP25P7プリントシロ・クリームB			
カップ	FCP25P7カップシロ・クリームB			
ケージング	FCP25P7ケージングカラー(1)			
メッキ釘	FCP25Q9メッキ	B-NC27Q9メッキ (ボート400)	B-NC27Q9メッキ (ボート400)	
メッキスクリュー釘	FCP25T3カップ	B-NC27T3カップメッキ	B-NC27T3カップ (ボート400)	
メッキリング釘	FSP25Q9メッキ		B-NS27Q9メッキ (ボート400)	
メッキリング釘	FRP25T3メッキ			
リングカラー	FRP25T3メッキカラー(2)			
ステンスクリュー釘	FSP25Q9-S	B-NS27Q9-S	B-NS27Q9-S (ボート400)	
カップ	FSP25T3-Sカップ			
カラー	FSP25Q9-Sシロ			
プリント	FSP25P7-Sプリントシロ・クリームB			
ケージング	FSP25P7-Sメッキカラー(1)			
ステンリング釘	FRP25T3-S	B-NR27T3-S		
カラー	FRP25T3-Sカラード(3)	B-NR27T3カラード(1)		
真鍮釘	FCP25T3-OHシンチチュウ			
銅釘	FCP25V0銅			
ブラ釘	FCP25V0ブラ			
鉄無地釘	FCP32T3	B-NC32V1		NC32V1-40入
鉄カラード	FCP32T3カラード(1)	B-NC32V1カラード(1)		
プリント	FCP32Q9プリントシロ・クリームB			
カップ	FCP32Q9カップシロ・クリームB			
メッキ釘	FCP32T3メッキ	B-NC32V1メッキ	B-NC32V1メッキ (ボート400)	NC32V1メッキ
メッキスクリュー釘	FCP32T3カップ	B-NC32V1カップ	B-NC32V1カップ (ボート400)	
メッキリング釘	FSP32T3メッキ		B-NS32T3メッキ (ボート400)	
メッキリング釘	FRP32T3メッキ			
カラー	FRP32T3メッキカラー(4)			
ステン無地釘	FSP32T3-S		B-NS32T3-S (ボート400)	NC32V1-S
ステンスクリュー釘	FSP32T3-Sカップ			
カラー	FSP32T3-Sシロ			
プリント	FSP32Q9-Sプリントシロ・クリームB			
丸頭	FSP32T3-S OH			
ステンリング釘	FRP32T3-S	B-NR32T3-S		
カラー	FRP32T3-Sカラード(2)			
鉄無地釘	FCP38T3	B-NC38V1		NC38V1-40入
メッキ釘	FCP38T3メッキ	B-NC38V1カップ	B-NC38V1メッキ	NC38V1メッキ
メッキスクリュー釘	FCP38T3カップ			
メッキスクリュー釘	FCP38T3メッキ			
フロア	FCP38T3フロア			
ステン無地釘	FCP38Q9-Sケージング			NC38V1-S
ケージング	FSP38T3-S			
ステンスクリュー釘	FSP38T3-Sカップ			
鉄無地釘				NC45V1-40入

- (1)カラーはシロ、クリームB、チャヤB(新茶)があります。
- (2)カラーはシロ、アイボリー、クリームB、チャヤB(新茶)、銀茶、金茶があります。
- (3)カラーはシロ、アイボリー、クリームB、チャヤB(新茶)、チャC(うす茶)、チャD(こり茶)、銀茶、金茶があります。
- (4)カラーはシロ、クリームB、チャヤB(新茶)、チャC(うす茶)があります。

5 使用方法

使用前に本機とエアコンプレッサを接続しないて使用方を覚えてください。

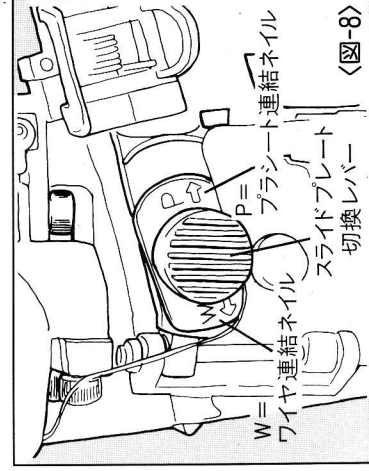
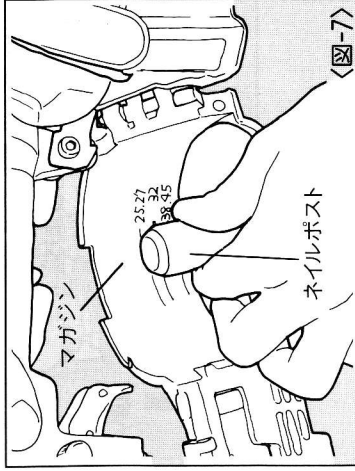
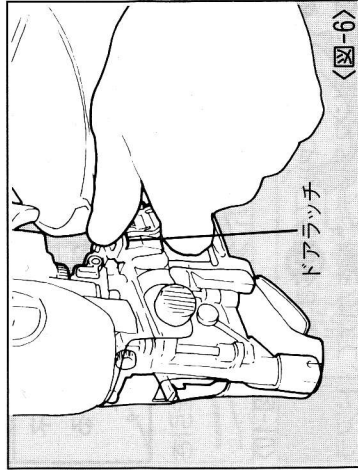
【ネイルの装填方法】

⚠ 警告

- ネイルを装填するときは、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

手順

- ①トリガをロックし、エアホースをはずします。
- ②ドアとドアラッチに指をかけてドアラッチを上へ押しつけながら左へ開きます。 〈図-6〉
- ③マガジンキャップを右へ軽く回して開きます。
- ④使用するネイルの長さに合わせてネイルポストの高さを調整してください。調整はネイルポストを指でつまんで引き上げ、回してセットします。 〈図-7〉



⚠ 注意

- 使用するネイルの長さに合わせ、必ず適正位置にネイルポストをセットしてください。不適正な位置で使用するするとネイルの送り不良が発生します。
- ⑤ドアのスライドプレート切換レバーを、ワイヤ連結ネイルの場合はWの方向へ、プラシート連結ネイルの場合はPの方向へ押しながらスライドさせて、適正な位置にセットします。 〈図-8〉
(出荷時はワイヤ連結ネイル用にセットしています。)

⑥マガジンキャップの板バネをワイヤ連結ネイルの場合下位置に、ブラシート連結ネイルの場合は上位置にセットします。

〈図-9〉

(出荷時はワイヤ連結ネイル用にセットしています。)

△ 注意

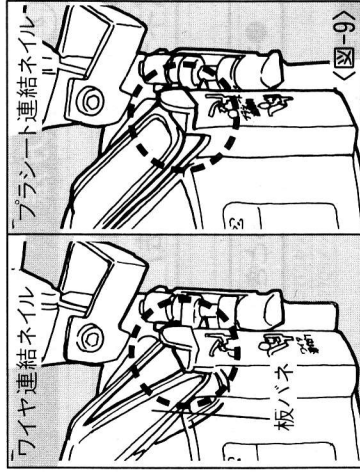
●スライドプレートとの切換え、板バネの切換えを不適正な位置で使用するとネイルの送り不良が発生します。

⑦ネイルをマガジンに入れ、ネイルを引き出し、送り爪の溝にセットします。

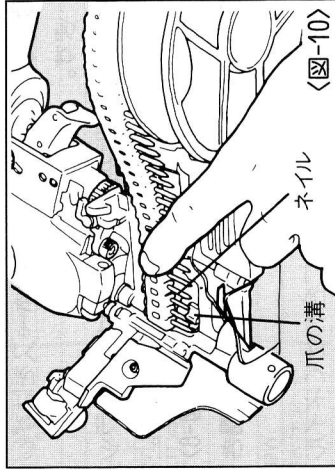
〈図-10〉

⑧マガジンキャップを閉じます。

⑨ドアとドアラッチに指をかけて、ドアラッチを上へ押しつけながら、ドアを右へ回して完全に閉じます。



〈図-9〉



〈図-10〉

【打ち方(連単切換レバーの使い方)】

本機は釘打作業の内容によって効果的な使い方ができるように連単切換機構を装備しています。

● 単発打ちの操作方法

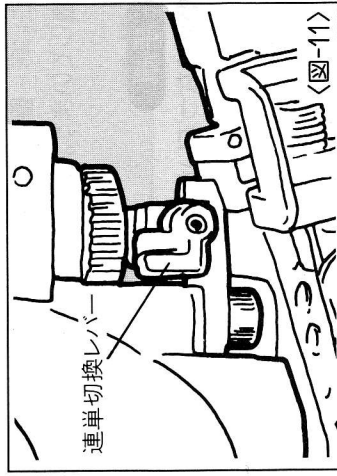
単発打ちとは、コンタクトアーム先端を打込対象物に押し当ててからトリガを引く操作でネイルを1本しか打たない打ち方です。主に石膏ボード打ちなど、ネイル頭を面に打ち合わせたり、仕上げを重視する釘打作業に適しています。

● 手順

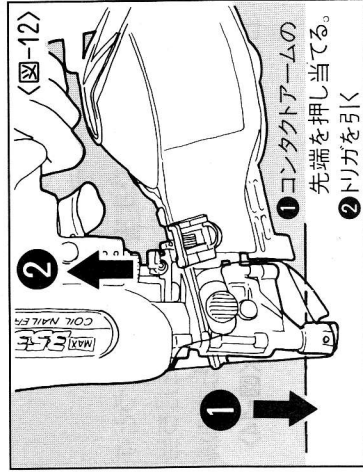
①連単切換レバーを押し回し、図のように確実にセットしてください。〈図-11〉

②トリガロックダイヤルを押し回し、フリの位置にセットします。

③ネイルを打とうとする箇所にコンタクトアーム先端をしっかりと押し当てたままトリガを引きます。〈図-12〉



〈図-11〉



〈図-12〉

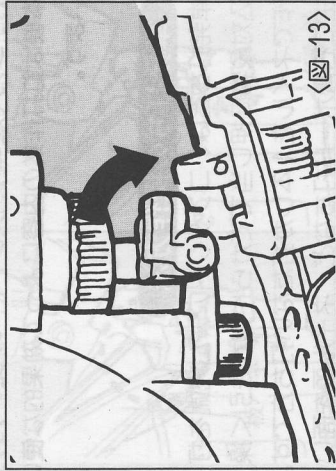
連続打ちの操作方法

連続打ちとは、トリガを引いたまま打込対象物にコンタクトアーム先端を打ち当てる操作をくり返すことで連続的に釘打作業ができる打ち方です。

主に床・壁・屋根などの下地打ちのときに適しています。

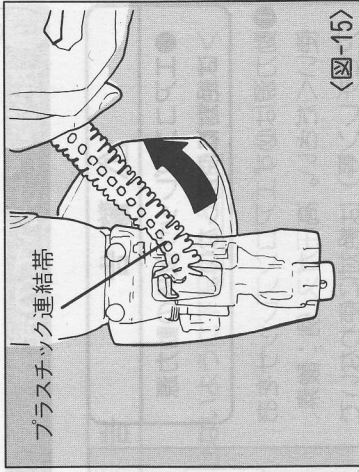
手順

- 1 横になっている連単切換レバーを図のように押し回し、確実にセットしてください。〈図-13〉
- 2 トリガロックダイヤルを押し回し、フリーの位置にセットします。
- 3 トリガを引いたままネイルを打とうとする箇所にコンタクトアーム先端を打ち当てます。この操作をくり返すことで連続打ち作業ができます。〈図-14〉



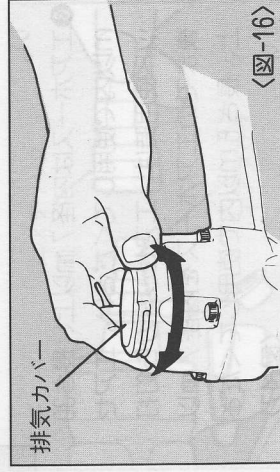
【プラスチック連結帯の切り方】

プラスチック連結帯を打っていますと、ノーズよりネイルのプラスチック連結帯が出てきますので→の方向に引きちぎってください。〈図-15〉



【排気方向の変え方】

シリンダキャップ部の排気カバーを手で回すことにより、排気方向を変えることができます。〈図-16〉

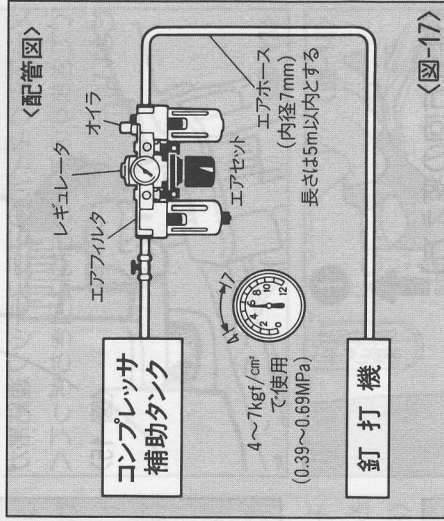


6 配管についての注意

警告

- エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

- ①動力源は必ずエアコンプレッサをお使いください。高圧ガス(例：酸素、アセチレン等)は絶対に使わないでください。
- ②エアセットはできるだけ本機1台に1セット取付けるようにしてください。
- ③エアホースは内径7mm以上、長さ30m以内で使用してください。エアセット使用時は、エアセットから釘打機までのエアホースを内径7mm以上、長さ5m以内で使用してください。



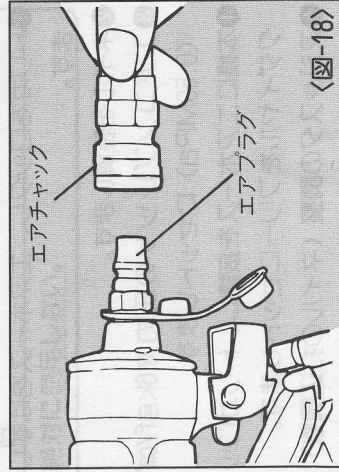
7 エアホースの接続

警告

- エアホース接続の時は必ず厳守する。
エアホースを接続する時は誤って作動させないように下記のことを必ず守ってください。
- 1.トリガをロックする。
 - 2.コンタクトアームに触れない。
 - 3.コンタクトアームを押し上げた状態にしない。
 - 4.射出口を人体に向けてない。

手順

- ①トリガをロックします。
- ②アブラダキキャップをはずす。
- ③エアプラグにエアホースのエアチャックを接続します。

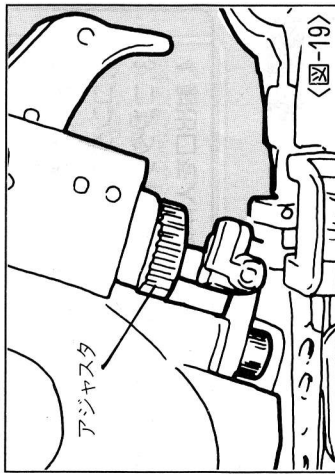


警告

- 作業中断時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

8 アジャスタの調整と打込状態の確認

本機には打込深さを調整できるアジャスタが装備されています。打込みすぎは極端に保
持力が低下しますので作業の際には打込状態を確認して、アジャスタで深さを調整して
ください。〈図-19〉



警告

- 調整の時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

手順

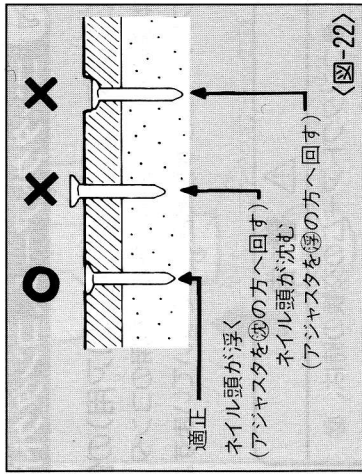
- 1 トリガをロックし、エアホースをはずします。
- 2 ネイルを装填します。
- 3 エアコンプレッサの圧力を6kgf/cm² (0.59MPa) にセットします。
- 4 本機にエアホースを接続し、トリガロックダイヤルをフリーにセットします。
- 5 アジャスタの調整 (ネイルの打込調整) の前に一度テスト打ちしてください。打込みたい深さを確認します。
- 6 トリガをロックし、エアホースをはずします。
- 7 ネイルを取り出します。
- 8 アジャスタを回し調整します。

〈図-20〉〈図-21〉

※アジャスタを1回転させると約1mm上下します。

- 9 本機にネイルを装填します。

- 10 エアホースを接続し、トリガロックダイヤルをフリーにセットしてさらにテスト打ちをして適正かどうか確認してください。〈図-22〉



- 11 適正であれば調整完了です。不適正であれば以上の手順をくり返してください。
- 12 適正状態が得られない場合はエアコンプレッサの空気圧を調整してください。

警告

- 7kgf/cm² (0.69MPa) を超えた圧力では絶対に使用しない。

9 コンタクトアーム、コンタクトトップの使い方

【コンタクトアームD(フロア用)の使い方】

本機には、フロアの本さね打ち用のコンタクトアームDが付属品としてついています。

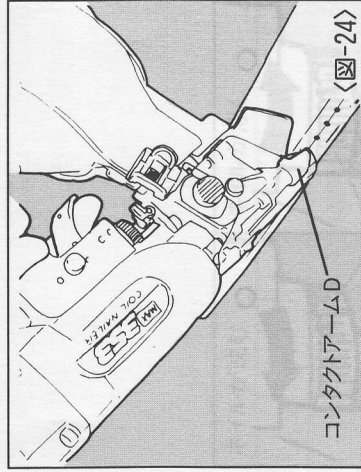
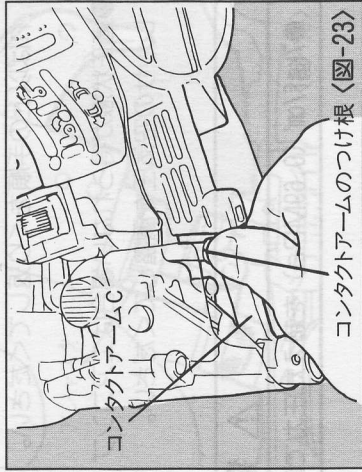
⚠ 警告

- コンタクトアームの交換の際は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

手順

- 1 トリガをロックし、エアホースをはずします。
- 2 コンタクトアームCのつけ根をつまみ、引つ張り、抜き取ります。 <図-23>
- 3 コンタクトアームDの接続部をコンタクトアームBにカチッと音がするまで押し込みます。

- 4 さねの部分にコンタクトアームDの先端を合わせて打ってください。 <図-24>
※硬いフロア材の場合、十分に打ち込めないことがあります。



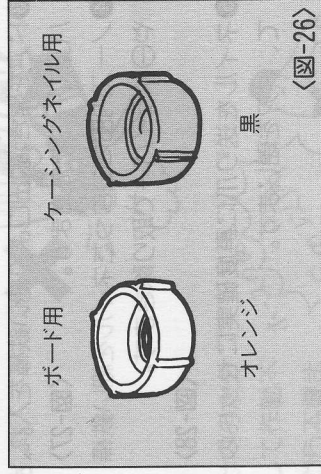
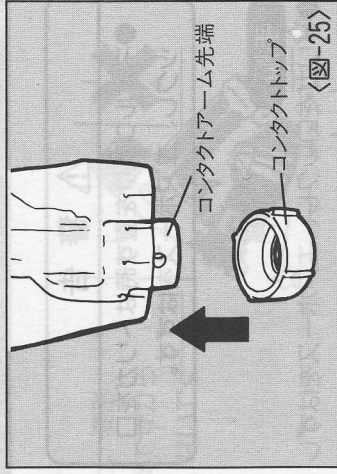
【コンタクトトップの使い方】

⚠ 警告

- コンタクトトップの着脱の際は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

石膏ボードを打つ際、表面に傷をつける恐れがある時は、付属品のコンタクトトップをコンタクトアームCの先端に取り付けてください。 <図-25>

- 1 石膏ボード張りの場合、コンタクトトップ(オレンジ)を使用してください。
- 2 ケーシングネイル使用の場合、コンタクトトップC(黒)を使用してください。 <図-26>

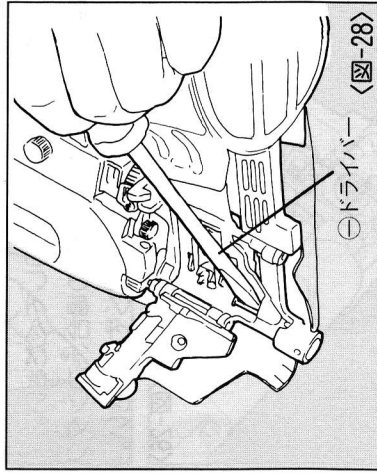
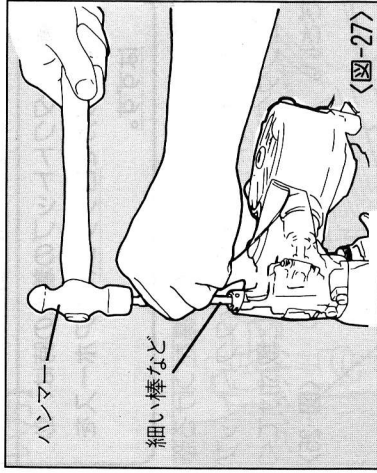


警告

- ネイルづまりを直す時はトリガをロックし、エアホースをはずさず。

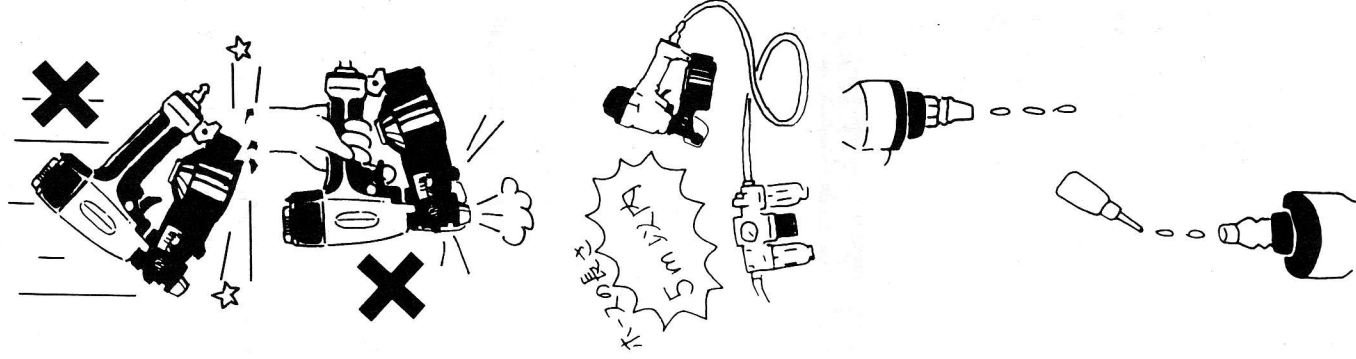
手順

- 1 トリガをロックし、エアホースをはずします。
- 2 ネイルをマガジン内より抜き取ります。
- 3 ドアを開き、射出口より細い鉄棒を入れ、ハンマーでたたきます。 <図-27>
- 4 ノーズ内部につまったネイルを細い鉄棒や①ドライバで取り除きます。 <図-28>
- 5 ネイルを送り爪に再度確実にセットして、ドアを閉じます。



性能を維持するために

- 1 本機を大切に使う
落したり、ぶつけたり、叩いたりしますと、変形、亀裂や破損を生じる場合があります。危険ですから絶対に落したり、ぶつけたり、叩いたりしないでください。
- 2 カラ打ちをしない
ネイルを装填しないでカラ打ちをくり返し行うと各部の耐久性が低下しますのでご注意ください。
- 3 エアセットを使用する
エアセットを使わないとエアコンプレッサ内の水分やゴミが本機内に入り、錆や摩耗が発生して作動不良の原因になります。なお、エアセットから本機までのエアホースは長すぎると圧力低下となり、5m以内にしてください。
- 4 本機の水抜きをする
作業終了時エアプラグを下に向け十分水抜きしてください。
- 5 指定オイルを注油する
オイルはタービン油1種ISO VG32 (JIS1号90番)を必ずお使いください。使用前使用後にエアプラグの口より2~3滴注油してください。指定外のオイルを使用しますと、能力低下や故障の原因となります。



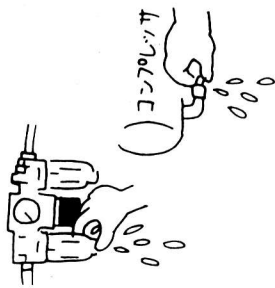
⑥エアブラグキャップの使用法

本機を使用しないときには、機械内部にゴミなど入ると故障の原因となりますので、本機を使用しないときはエアブラグにキャップを装着してください。



⑦エアコンプレッサのタンク、補助タンク、エアセツ

トのエアフィルタの水抜きをする
エアコンプレッサのタンク、補助タンク、エアセツトのエアフィルタに水がたまると能力低下や故障の原因となりますので定期的に水抜きをしてください。



⑧定期的に点検する

本機の性能を維持するために清掃、点検を定期的に行ってください。点検はお買い求めの販売店又はマックスサービスマンにお申し付けください。

12 カラ打ち時の確認事項

作業中に本機は作動するがネイルが実際に打ち込まない場合には、下記の事を点検してください。

- ①ネイルが送り爪にきちんとセットされているか。
- ②送り爪が作動しているかどうか。

※作動していない場合は、エアブラグから2～3滴注油してください。

- ③ネイルがマガジン内からつまっていないか。
 - ④ネイルポストの高さがネイルの長さに合わせて適正に調整されているか。
 - ⑤ワイヤ連結ネイルとブラシート連結ネイルの切換えが適正に行われているか。
- 上記①②③④⑤を確認してもカラ打ちが直らない場合には、お買い求めの販売店またはマックスサービスマンに点検・修理に出してください。